

授業科目名・形態	健康教育論 講義	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	藤田 碧	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

公衆衛生看護活動を実践する基盤の一つとなる健康教育や健康学習について、その基礎理念を理解する。また、個人や集団に対する健康教育や健康学習の企画、実施、評価の一連の方法と技術を理解し、実践を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 健康教育や健康学習の基礎理念を理解できる。
2. 健康教育や健康学習の企画、実施、評価の一連の過程を理解できる。
3. 健康教育や健康学習を企画し、実践できる。

【授業計画・内容】

第1回	健康教育の理念	健康の概念
第2回	健康教育の理念	ヘルスプロモーション、健康教育の定義・目的・対象 等
第3回	健康教育と保健行動	
第4回	健康教育に用いる基礎理論	
第5回	健康教育・健康学習の方法	
第6回	健康教育・健康学習の計画	健康教育・健康学習の企画
第7回	健康教育・健康学習の計画	健康教育・健康学習の実施、評価
第8回	健康教育・健康学習の実際	健康教育の実際例、グループワーク
第9回	健康教育・健康学習の実際	健康教育・健康学習の企画（健康課題の探求・テーマ設定）
第10回	健康教育・健康学習の実際	健康教育・健康学習の企画（企画書の作成）
第11回	健康教育・健康学習の実際	健康教育・健康学習の企画（企画書・指導案の作成）
第12回	健康教育・健康学習の実際	健康教育・健康学習の指導案、媒体の作成
第13回	健康教育・健康学習の実際	健康教育・健康学習の指導案、媒体の作成
第14回	健康教育・健康学習の実際	グループ発表
第15回	健康教育・健康学習の実際	グループ発表、まとめ

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨み、講義後は学修内容を復習する

【主な関連する科目】

「公衆衛生看護技術論」「公衆衛生看護学実習」などの公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

荒賀 直子・後閑 容子ら編「公衆衛生看護学.jp 第5版」インターメディカル出版、2020
 （※第6版が出版されれば第6版）

【参考文献】

佐伯和子ほか：公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護の方法と技術第2版、医歯薬出版株式会社、2022
 厚生統計協会編「国民衛生の動向 2021/2022年」2020年、2021.

【成績評価方法】

受講態度等（5%）、演習内容・提出課題（25%）、定期試験の成績（70%）による総合評価

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

行政保健師やNPO等の保健師、委託による事業所等を巡回しての特定保健指導など、多彩な形で健康教育や個別相談を行ってきました。これらの経験を基に、対象者の健康に資する健康教育や、そのためには看護職が対象者の個人及びその背景を知ることの大切さを伝えていきたいと思っております。

【学生へのメッセージ】

この授業で学んだことは、学内の看護関連科目の講義や演習、学外実習、そして看護職として働く場で活用できます。そのため、学習した知識と技術は確実に自分自身のものになるよう授業後に復習しましょう。